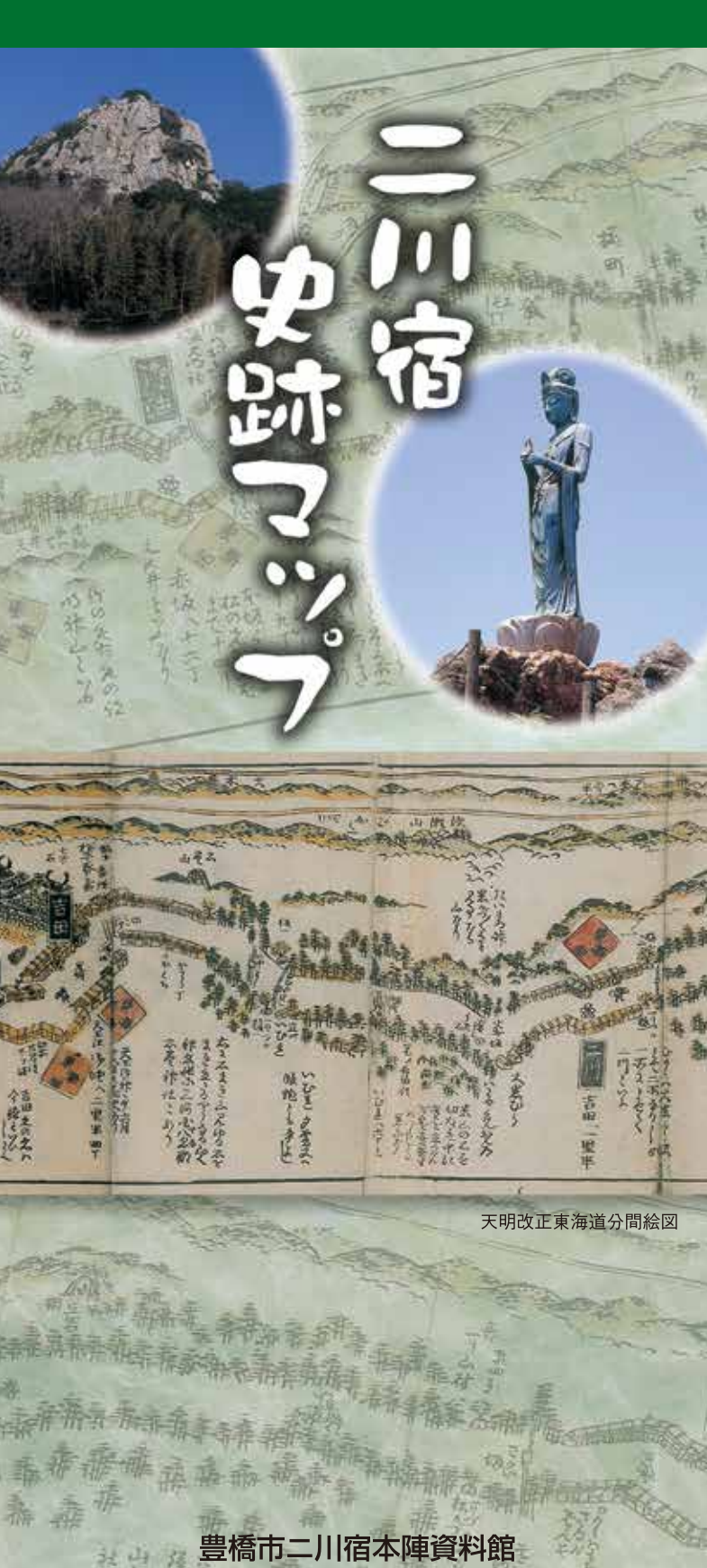




二川・吉田散策マップ



吉田城跡
永正2年(1505)牧野古白が築城し、その後池田輝政が整備・拡張を行いました。豊橋公園内には今も堀・石垣・土塁などが残っています。



東海道五十三次之内 吉田 豊川吉田橋(行書版)歌川広重

吉田宿とその周辺

吉田宿は東海道五十三次34番目の宿場町で、江戸日本橋より73里余(約289km)、東の二川宿へ1里20町(約6.1km)、西の御油宿へは2里22町(約10.2km)の距離でした。吉田は宿場町としてだけでなく、城下町、湊町としても栄え、東海道沿いの表町十二ヶ町と裏町十二ヶ町の計二十四ヶ町で構成されました。宿内は軍事目的から、見通しを避けるためいくつもの曲がり角があります。町並の長さは東西南北23町30間余(約2.5km)、天保14年(1843)の「東海道宿村大概帳」によれば、人別5,277人(男2,505・女2,772)、家数1,293軒の内本陣2軒、脇本陣1件、旅籠屋65軒でした。

現在宿場の様子はすっかり失われましたが、東海道の道筋は一部を除いてたどることができ、町名などが当時を物語っています。付近の豊橋公園には吉田城や美術博物館などがあり市民の憩いの場として親しまれています。また安久美神戸神明社の鬼祭りや吉田神社の祇園祭りなど毎年多くの人で賑わっています。

別所街道(本坂通・姫街道)



秋葉山常夜灯

文化2年(1805)、東海道と本坂通の分岐点に建立されました。戦後豊橋公園内に移築されていましたが、平成13年(2001)、東海道宿駅設置400年を記念して現在の位置に移築されました。



普門寺

神亀4年(727)行基が開いたと伝えられます。木造四天王立像(国指定重要文化財)をはじめ多くの文化財を所蔵しています。



普門寺



視聴覚教育センター地下資源館



東観音寺

天平5年(733)行基が開いたと伝えられます。境内には多宝塔(国指定重要文化財)があり、他にも多くの文化財を所蔵しています。

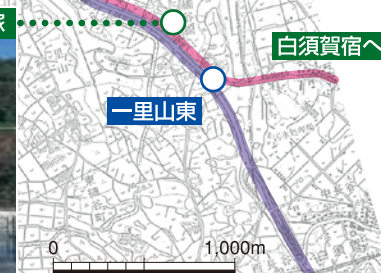


立岩

一里塚跡付近から東方に見える、切り立った岩山です。街道の風物として道中記にも取り上げられたその姿は今も変わりません。



細谷一里塚



一里山



二川宿本陣資料館

二川宿とその周辺

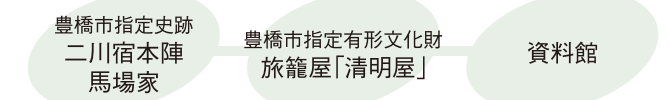
二川宿は東海道五十三次33番目の宿場町で、江戸日本橋より72里余(約283km)、東の白須賀宿へ1里17町(約5.8km)、西の吉田宿へは1里20町(約6.1km)の距離でした。宿場としては小規模で、町並の長さ東西12町26間(約1.3km)、天保14年(1843)の「東海道宿村大概帳」によれば、加宿大岩町を含めて、人別1,468人(男721・女734合計合わず)、家数328軒の内本陣1軒、脇本陣1件、旅籠屋38軒でした。

現在でも2ヶ所の樹形とともに当時の町割をほぼ残し、本陣馬場家をはじめとして旅籠屋「清明屋」、商家「駒屋」などがかつての宿場町の様子を今に伝えています。

また周辺には総合動植物公園、自然史博物館、視聴覚教育センター、地下資源館などがあり一日中楽しめる地域となっています。



豊橋市二川宿本陣資料館



豊橋市指定史跡 二川宿本陣馬場家

豊橋市指定有形文化財 旅籠屋「清明屋」

資料館

大名の宿・本陣と庶民の宿・旅籠屋がセットで見学できる施設です。資料館では「東海道」「本陣」「二川宿」をテーマに展示しています。

開館時間

午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

休館日

月曜日

(ただし、この日が祝日または振替休日の場合はその翌平日)
12月29日～1月1日

入館料

一般400円(320円) 児童・生徒100円(80円)
()内は30名以上の団体および前売料金
(前売券は発行日翌日から有効)

ほの国こどもパスポート、豊橋市敬老バッジ・シルバー優待カード、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料

交通案内

電車で/JR東海道線二川駅下車、北口より東へ1km
豊橋駅～二川駅は約6分
車で/東名高速・浜松西I.C.・豊川I.C.より約45分

編集・発行

豊橋市二川宿本陣資料館
平成17年4月
平成28年2月改訂

問合せ

〒441-3155 豊橋市二川町字中町65番地
TEL.0532-41-8580 FAX.0532-41-8940
URL <http://www.futagawa-honjin.jp>

吉田宿から岩屋観音へ向う道が東海道と分かれるあたりに建てられていたと思われる道標です。



観音堂は行
2年（730）に
と伝えられま
の聖観音立像
年（1765）に
街道の風物と
記などに取り
ました。現在
和25年（1950
されたもので



明治から昭和初期
 につけ二川は玉糸製
 糸の町として知られ
 ました。小淵志ちは
 その発展に尽力しま
 した。

岩屋山と松明峠に挟まれた火打坂。
 当時はこの坂の途中に「尉と姥石」
 というものがあり、道中記にも紹介
 され旅人の目を引いていたようです。

視聴覚教育センターのプラネタリウムでは星空や天体の学習をすることができます。地下資源館は石油をはじめとする地下資源やエネルギーについて展示をしています。

■問合せ先
視聴覚教育センター 0532-41-3330
地下資源館 0532-41-2833



天保15年(1844)に建立され、はじめは「疥石」の字を宛てていました。社殿裏の巨岩に溜まる冷水が、疥をとるのに効果があるといわれています。



東海道から豊橋南部を横切り田原街道へと続く道の道標として、明治33年(1900)に建てられたものです。当時の分岐点は今より50mほど東でした。



三河国三十三霊場の
番札所岩屋観音への道
として、弘化4年(184
に建てられたもので
当時道標は現在地より
の火打坂交差点あたり
あったと思われます。

郷倉は年貢を蓄えておく共同の倉です。宿内には二川、岩村にそれぞれありましたが、

幕府や大名の
令を掲示した所
につきやすい
置されました。
は二川・大岩
側に東向きに
いました。

本陣の補助的役割を果たし、大名の休泊が重なったときなどは脇本陣を利用しました。江戸時代後期には松坂権右衛門が勤めました。



二川宿で商家を営むかたわら、問屋役や名主などを勤めた田村家の遺構です。江戸時代後期から大正時代に建てられた8棟の建物からなり、宿場町の商家の一般的な形式を残しています。入館無料。

■問合せ先 0532-41-6065



境内には寛永9年(1632)建立の「二川新町開山碑」と呼ばれる石碑があり、二川村の本郷より元屋敷への移転を記念したものと考えられています。



二川村の氏神で、境内には二川宿の人々の寄進による灯籠2対が残り、二川宿新橋町の街道枡形南にあった文化6年（1809）建立の秋葉山常夜灯が移されています。



康永～貞和年間（1342～50）の創立と伝えられます。江戸時代大通行の際の休泊所、本陣休泊者の避難所に指定されていました。



もとは岩屋山麓にあり、岩屋観音に奉仕した六坊中の一坊でした。岩屋観音に寄進された絵馬・黄金灯籠等の文化財を所蔵しています。



群馬県出身の小沢
ちは、二川に移住して
明治18年(1885)に
徳製糸場を設立しま
した。最盛期の大正時
には約千人の女工が
いました。



大岩村の氏神で、境内には寛延4年（1751）の灯籠をはじめ秋葉山常夜灯、手水鉢があります。



淡緑色の花が平安時代の公家装束を連想させることから名づけられたといわれる御衣黄桜が有名です。例年4月中旬頃満開を迎えます。

